

やまおり
山折先生

大森 海太

最近、日経の文化欄で読んだ宗教学者の山折哲雄という先生の話が面白かった。

昭和六年生まれの老先生は若いころから胃潰瘍、脾臓炎、脳梗塞など数々の病気を経験され二年前には肺炎が重症化して危ぶまれたが、九死に一生を得て回復された。

今ではお酒も再開され、京都市中のマンションで「妄想三昧、執筆三昧、昼寝三昧の生活」を送っておられるとか。

その先生が今のウクライナでの戦争を見て、古代からの民族大移動を想起される。まずは中央アジアに定住していたアーリア人が現在のインドやイラン高原に侵入して征服する。続いてゲルマン民族とノルマン人の大移動、すべて略奪と殺戮の繰り返しだ。さらに十字軍戦争などを経て地中海文明が形成され、近世では西欧諸国のアフリカ大陸略奪、奴隷売買、アメリカ大陸征服と続く。昨今の状況は狩猟社会的な野蛮な人間の姿の延長線で、憎悪と復讐の連鎖が止まらなくなってきた。

いっぽうわが日本列島は、明治維新以前は中国文明の圧倒的な影響下にあり、千年以上いわば日中同盟でやってきた。明治以降は日欧同盟が続き、敗戦後は日米同盟になった。日本列島にある辺境の文明は、大文明の傘に守られた従属関係のなかで必死に生き延びてきた。「我々の先祖はすごい！」と先生は強調される。

平安時代の三五〇年、江戸時代の二五〇年は大きな戦争がなく、世界的にも奇跡と呼べるような平和な時代が続いた。第二次大戦での敗北以外には、日本は長きにわたって外国の侵略を免れてきた。この「ノンバイオレンス」の日本モデルを今こそ流血のやまぬ世界に向かって示すべきだ、と先生は結ばれる。

これについては様々な意見があるだろう。現在の世界の状況は極めて難解で、裏の事情に詳しい方々からは陰謀説、謀略説などの御説も出てくるだろう。

確かにこのような状況下での日本の立ち位置や振る舞いは、先生が言われることとは別に複雑かつ微妙なものがある。「すごい先祖」に倣った良き舵取りが大切だ。